

会 議 録

会議の名称	令和2年度第2回白岡市環境審議会		
開催日	令和2年10月6日(火)		
開催時間	午後2時00分開会 ・ 午後3時30分閉会		
開催場所	白岡市役所4階 特別大会議室		
会長の氏名	三宅 敏郎		
出席者の氏名・出席者数	白岡市長 小島 卓 白岡市環境審議会委員 三宅 敏郎、齋藤 俊治、久保木 孝夫、渡邊 昇子、 廣瀬 秀男、弓木 裕一、浅野 悦子、川岡 直美、 福田 慎太郎、青木 伸行 <div style="text-align: right;">11人</div>		
欠席者の氏名・欠席者数	なし		
説明員氏名	(1) 第2次白岡市環境基本計画の策定について：中澤主任 (2) 第2次白岡市環境基本計画の概要について：中澤主任		
事務局職員の職・氏名	市民生活部	部長	篠塚 淳
	環境課	課長	大橋 寛枝
	環境課	主幹	鬼久保 晃一
	環境課	主査	村岡 信義
	環境課	主査	吉田 宏
	環境課	主任	中澤 聡
	6人		
その他会議出席者の職・氏名	サンコーコンサルタント株式会社 課長 二木 友也 <div style="text-align: right;">1人</div>		
傍聴者	1人		
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ 3 諮問 4 議事 (1) 第2次白岡市環境基本計画の策定について		

	<p>(2) 第2次白岡市環境基本計画の概要について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉 会</p>
配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 白岡市環境審議会委員名簿 ・ 白岡市環境基本条例 ・ 資料1 第2次白岡市環境基本計画の策定について ・ 資料2 第2次白岡市環境基本計画ドラフト版 ・ 資料3 第2次白岡市環境基本計画策定に向けた環境に関する市民・事業者アンケート調査報告書

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
大橋課長	1 開 会 会議を開会。
小島市長	2 あいさつ 小島市長からあいさつ。
小島市長及び 三宅会長	3 諮 問 「第2次白岡市環境基本計画の策定」について諮問。
大橋課長	4 議 題 議事進行については、白岡市環境基本条例第31条第1項に基づき、会長に依頼する。
三宅会長	(1) 第2次白岡市環境基本計画の策定について これより議長の職を務める。 議題(1)第2次白岡市環境基本計画の策定について、事務局から説明を求める。
中澤主任	資料1に基づき、第2次白岡市環境基本計画の策定について説明を行った。
会長	説明内容に対して質問等はあるか。
A委員	9月16日に実施された庁内検討委員会にはどのようなメンバーが参加したのか。
中澤主任	環境には開発などの街づくりも大きく関わってくるので、街づくり課や道路課などの事業系の課や、農地や自然に関係する農政課、バリアフリーなども含まれるので高齢介護課、子ども達への環境教育も重要と考えているので、教育委員会など、様々な分野の課から出席してもらっている。

B 委員	アンケート調査については市民を無作為に抽出したとあるが、どのような方法で抽出したのか。
中澤主任	市民は満15歳以上、80歳未満の男女を対象とした。事業者は商工会に協力をいただき、業種が偏らないように抽出した。
A 委員	アンケートの取り方については、もっと良い方法があったのではないか。15歳以上としているが、小中学生や高齢者層など年代を分けて調整した方が良いのではないか。特に、将来を担う子どもたちの意見が重要であると考えます。
中澤主任	例えば、環境審議会なども中高生の部などを作って、意見を聞く事なども考えられる。調査をやり直さないといけないという意味ではないが、若年層、女性など、もう一步踏み込んだ調査をした方が良かったのではないかと思います。
中澤主任	抽出方法について、補足して説明させていただく。 抽出の際は15歳から19歳まで、20歳から24歳まで、という様に5歳毎に年齢層を区切り、各年代の数が均等になるように、バランスを取って抽出をしている。
A 委員	私はボランティアで活動をしているが、ボランティア活動の中で感じる市民の環境に対する意識の印象は、アンケート調査の結果とずれている。環境には関心が無いという人は実際には多いはずである。アンケートで関心があるか無いかと問われれば、そこまで関心が無くても環境問題に関心があると答えてしまうと思う。
B 委員	もっとざっくりばらんに聞かないと本当の意識は分からない。本音が出る方法というのは難しいと思うが。 年代のバランスを取っているとのことだが、若い人

<p>中澤主任 三宅会長 委員一同</p>	<p>の回答が少ない。これは若い人は環境に関心が無いということか。</p> <p>その様に捉えることもできる。</p> <p>その他質問等はあるか。</p> <p>なし。</p>
<p>三宅会長</p>	<p>(2) 第2次白岡市環境基本計画の概要について</p> <p>議題(2)第2次白岡市環境基本計画の概要について、事務局から説明を求める。</p>
<p>中澤主任</p>	<p>資料2に基づき、第2次白岡市環境基本計画の概要について説明を行った。</p>
<p>三宅会長 A委員</p>	<p>説明内容に対して質問等はあるか。</p> <p>環境審議会の基本的な姿勢にも関わると思うが、提示された計画案は根本的なスタンスがずれているという感じがする。34ページに「地球のために行動」とか「地球にやさしく」というフレーズが出てくるが、これは間違っていると思う。「ために」とか「やさしく」は、弱いものに対して言う言葉ではないか。「地球のために」ではなく、「私たちのために」というスタンスであるべきだと考える。代替案については追って考えるが、ベーシックな話であり重要である。</p>
<p>三宅会長</p>	<p>言葉の印象というのは人それぞれであり、一概に間違いとも正しいとも言えない面があると思う。今回は提案事項として受け取る形にしたい。</p>
<p>C委員</p>	<p>提示された計画は全体的に分かりやすくなっていると思う。特に、持続可能な社会の考え方や、SDGsも関連付けてあり、基本的には良い計画になっていると思う。リーディングプロジェクトの脱炭素社会を実現しよう！プロジェクトは我々に手土産を残してくれたように感じる。</p>

<p>中澤主任</p>	<p>なお、同プロジェクトではSDGsの「7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに」を関連付けているが、「13. 気候変動に具体的な対策を」も関連があるので、追加した方が良いと思われる。</p> <p>また、12ページの課題の文言の中の「低炭素社会」は「脱炭素社会」で統一した方が良いのでは。</p> <p>ご指摘のとおり、13番目の項目はリーディングプロジェクトに大きく関連する項目だと思われる。御意見を踏まえて、「13. 気候変動に具体的な対策を」も位置付けて整理する。</p> <p>また、12ページの文言も「脱炭素社会」に修正をする。</p>
<p>A 委員</p>	<p>13ページに人づくりの課題が記載されているが、ボランティアの力に頼ることが多くなる計画のように見受けられる。しかし、環境ボランティアと言っても専門性を持ってやっている方は少ない。従って、不定期でも良いからプロのアドバイスを得て方向性を決めるような、そういった予算のつけかたも必要だと思う。</p> <p>例えばC委員などは専門性を持っているが、そういった方のアドバイスはボランティアにとっても良い経験になる。</p>
<p>中澤主任</p>	<p>A委員の意見は参考にさせて頂きたい。市としてもボランティアに頼ってしまっている面も確かにある。</p> <p>一方で、リーディングプロジェクトにも位置付けているが、計画や条例の認知度が低いという課題もある。もっと多くの人に計画や条例について知って貰って、市民がそれに対して意見するようになるのも、人づくりになるのではないかと考えている。様々な方面からアプローチしていきたいと考えている。</p>
<p>D 委員</p>	<p>三者協働の部分で市民に対する要請の部分が多くあ</p>

<p>中澤主任</p>	<p>る。自分も環境審議会の委員になるまでは計画自体を知らなかった。計画を知ってもらうために、具体的にどういった取り組みをするのかが重要かと思われるが、現時点で決まっていることはあるか。</p> <p>本編とは別に概要版を作成し、広く配布する予定である。</p> <p>例えば、アンケートを依頼した事業者の150社は分かっているので、協力していただいたお礼として配布したいと考えている。また、子どもの環境教育が重要になると考えているので、小中学校の全校生徒を対象とした計画の学校版パンフレットの作成を考えている。</p> <p>こういった草の根から広げていく市民協働の取り組みを進めたいと考えている。</p>
<p>D 委員</p>	<p>これまではそういった取り組みをやってこなかったということか。</p>
<p>中澤主任</p>	<p>全くやってこなかったという訳ではない。しかし、計画の認知度が10年経っても低いということは、やはり今までの施策が甘かったと言わざるを得ないし、そこは反省しなければいけないところだと考えている。</p> <p>計画が策定されたら、広報紙にも掲載する予定であるので、広報紙を通じて広く市民に計画を知ってもらいたいと考えている。</p>
<p>E 委員</p>	<p>南小学校と南中学校では今年度、学校運営協議会が設立され始動する。環境教育が重要であれば、子ども、保護者、先生、地域の方に加入してもらって進めていくのも良いのではないか。</p> <p>実際、自分も環境審議会の委員になるまで、このような計画があるとは知らなかった。市民に対する周知</p>

<p>大橋課長</p>	<p>も重要だが、やはりこれからの主役となる子どもの義務教育の段階から環境問題を学ばせる場所を作ることが重要だと思う。</p> <p>P T Aと学校として取組んでいる事としては、資源回収を実施している。南地区では小中合同、各地区の行政区長に協力して頂き、各家庭で出てくる資源物について、これだけ出れば、それがリサイクルされトイレットペーパーや鉛筆になって帰ってくるということを伝えている。南地区では年に3回実施している。大事なことだと考えている。</p> <p>学校では、環境学習の時間があり、取り組んでいただいている。</p> <p>今回のアンケート調査結果では若い年齢層のSDGsの認知度が高く、学校における環境教育が進んでいることを実感したところである。</p>
<p>A 委員</p>	<p>小中学生に対する環境教育の重要性については、私も100%同意する。私も南小学校で環境教育の講座をもったことがある。我々世代の市民は、環境問題についてはあまり考えない。</p> <p>やはり子どものころから環境教育で学ばせることが重要である。そういった意味では、やはり環境審議会の小中学生の部を立ち上げるなどの工夫も必要だと思う。</p>
<p>中澤主任</p>	<p>市としても、子どもに対する環境教育がとても重要だと考えている。今後、どの様な形で取り組んでいくことができるかは、十分検討したい。</p>
<p>C 委員</p>	<p>アンケートの結果を見て、10代のSDGsの認知度が高いことは意外に感じた。</p> <p>しかし、気候変動による危機に対しての行動は、全国的に若い世代が取り組んでいるということもある。</p>

<p>中澤主任</p>	<p>そういった影響もあって10代の認知度が高い結果になっているとも考えている。</p> <p>若い世代が訴えていることは地球温暖化や気候変動ではなく、もはや「気候危機」であるということである。国の環境白書にもはじめて「気候危機」というワードが入った。この計画が10年の計画であるならば、白岡市も気候危機を認識しているという意思表示をするためにも、どこかに「気候危機」というキーワードを入れておいた方が良く考える。</p> <p>確かにここ数年の夏の暑さは異常であり、気候変動が実感できるようになってきている。御提案いただいた「気候危機」という言葉の取扱いについては検討をしたい。</p>
<p>三宅会長</p>	<p>リーディングプロジェクトの脱炭素社会を実現しよう！プロジェクトについては、地方自治体でも取り組んでいかなければいけないものと認識している。気になるのは数値目標である。地球温暖化対策実行計画については、事務事業編について、地方公共団体がやらなければならないものとして記載がされている。また、区域施策についても策定すると位置付けられている。</p> <p>そうなると、白岡市全体の削減計画を作らないといけないことになるが、この計画にある数値目標は、まず全体の削減計画があって、そのために一体何をするかというストーリーが必要となる。</p> <p>この計画に示されているのは、助成件数などであり温室効果ガス削減量の数値目標ではない。市役所庁舎の電気使用量を減らす数値目標があるが、仮に東京電力の排出係数で試算すると51tと非常に少なく、区域施策編の目標にはあまり寄与しない少ない削減量となる。ここで示すべきは白岡市全体の温室効果ガスの削</p>

<p>鬼久保主幹</p> <p>B 委員</p>	<p>減量ではないか。</p> <p>一方で、埼玉県内で区域施策編を策定しているのは大きな自治体であり、白岡市で策定するのは大変なことになると思われる。資料編に白岡市全体の温室効果ガス排出量が示されているが、全体で243.6千トンとなっていて、これを例えば少なくとも仮に10%削減するとなると、2万4千トンになり、それだけの温室効果ガスを削減するとなると何をすればよいかという議論になる。これはチャレンジということになるが、このプロジェクトでは、区域施策編と連携して白岡市全体の温室効果ガス削減に向けた取り組みを位置付けておかないといけないのではないかと考える。</p> <p>また、資料編に示されている温室効果ガス排出量の数値は22万8千tとなっているが、これは二酸化炭素のみの値なので、24万3千トンと修正が必要である。</p> <p>区域施策編については、政令市や中核市など大きな市以外の策定は努力目標となっている。</p> <p>しかし、白岡市としても社会情勢を踏まえて計画策定が必要だと考えている。本計画が10年間の計画なので、いつ策定するかどうかということも含めて、今後検討していきたいと考えている。</p> <p>36ページで河川や水路の改修。排水施設の整備、雨水流水対策等を推進するとあるが、市内の大きな河川で市の管轄のものはほとんどない。行政区の代表なので、河川の管理が悪く、市にいろいろな要請をしている。しかし、市にお願いをすると、それは県の管轄だという返答が返ってくる。</p> <p>この計画でこのような記載をするということは、今後は市の問題として積極的に市も取り組んで貰えると</p>
--------------------------	---

<p>鬼久保主幹</p>	<p>いう理解でよいのか。</p> <p>ご指摘のとおり市内の河川や用水は、県の管理、水資源機構の管理となっており、市の管轄は一部の小さな河川のみである。</p> <p>市としては各所管の管理者に依頼していく形になるが、所管課を通じて各河川管理者と随時連絡、連携して取り組んでいくという姿勢である。また、環境課としても、市内河川の水質測定を実施して、市民の皆様安心して貰えるよう監視するという形で取り組んでいる。</p>
<p>B 委員</p>	<p>水資源機構の管轄の河川はしっかり管理をしているという印象があり、県の管轄になると管理が出来ていないという印象である。</p> <p>また、26ページの市民の取組には「田畑の手入れを行いましょう」とあるが、篠津地区などは、耕作放棄地ではなく、農水省の定義では荒廃農地に該当する。普通の農作業では回復しない状態になっていると思う。</p> <p>こういった状態は他の自治体ではないのではないか。そういった中で「田畑の手入れを行いましょう」という記載だけはどうなのか。もっと上位にあげるべき課題で、条例などで管理、対策を講じるぐらいのことをしなければいけないと考える。環境問題としても重要だ。</p>
<p>鬼久保主幹</p>	<p>篠津地区には耕作放棄地、遊休農地などが確かにある。背景には、近年の農業従事者の減少、高齢化、相続などの問題があり、不在地主が増加しているのも要因である。昔であれば長男が相続したりしたが、今では農家でない方が土地だけを相続するような形もあり、農地の所有が細分化されているという状況もある。</p>

<p>B 委員</p> <p>篠塚部長</p>	<p>16 ページで遊休農地の有効利用を図る旨を記載している。農業委員の方や農地利用最適化推進委員の方が、現地の状況を把握して大きく耕作している方に、農地を集約して頂いて少しでも耕作して頂けるようお願いすることを進めている。これは白岡のような首都圏40km圏内であれば茨城県なども同様の課題となっている傾向にある。地方の農地と違って資産価値があるという面があり、そういった現象が起こっている。</p> <p>遊休農地の解消は市としても取り組んでいかなければならない重要な課題と認識している。所管課と調整しながら進めていく。</p> <p>私は熊谷出身だが、そういった状況になると行政から連絡が来る。こういった形で環境に影響するかどうかと、ムクドリが大発生するということがある。ここ数年でも大幅にムクドリが増えている。身近な環境に影響がある。対策のレベルを考えて重要な課題は条例などで対策する、個人で対策するものは個人に依頼するなどが必要ではないかと思う。</p> <p>環境課は市民生活部にあり、部としては農政課も所管している。田畑の荒廃地については市としても重要課題としている。なかなか農業を続けるのは難しいという状況もある中で、市としてはコーディネーターとして農地と農業をやって頂ける方とお見合いのようなことも実施しているが、懸念されている地区のように荒廃地ぐらいまでになってしまうとなかなか難しい面がある。</p> <p>そういった状況も踏まえて、市としては、さらに例えば民間企業に入ってきてもらえないかなど、全面的には難しくともこういった形で農業を振興させていけるか考えている。</p>
-------------------------	---

<p>C 委員</p>	<p>いずれにせよ、市としては最重要課題として捉えているので、今後の検討を進めていきたいと考えている。</p> <p>計画の中にエコドライブの推進に関することが各所に入っている。とてもよいことだと思うが1点、市の取り組みでアイドリングストップの推進が記載されているが、アイドリングストップはエコドライブの一部なので、エコドライブの推進という形で表現した方がよいと思われる。</p> <p>また、ライトダウンキャンペーン、Fun to Shareの参加推進の記載があるが、一部自治体独自で継続されているところもあるようだが、いずれも国のキャンペーンとしては終了しており、クールチョイスとしての推進に表現を改めた方がよい。</p>
<p>中澤主任 A 委員</p>	<p>意見を踏まえて修正する。</p> <p>先ほどの田畑の手入れを行うという件に関連して、水田にごみが多いのが目につくと思うが、なぜ人が田んぼや畑、雑木林にごみを捨てるのかという心理を考えたことがある。ひとつの要因としては、田畑の手入れが行われていない、農業の引継ぎ手がない、農業従事者がどんどん減少していることにある。</p> <p>昔、農業従事者が多かったころは、友人、親戚、兄弟に農業従事者がいた。そうになると、関係者に農業従事者がいると、田畑に平気でごみを捨てるようなことはできない。農業の方の気持ちがわかる訳なので。そういった意味でも、田畑を手入れしましょうということは重要だと考える。</p> <p>また、提示された環境基本計画はとてもボリュームがあり、良くまとめられていると感じた。しかし、一方ではこういった計画は市町村ごとで策定するのではなく、近隣の同じレベルの自治体と一緒に計画を作る</p>

篠塚部長	<p>のでも良いのではないかと思う。各自治体で計画を作っても、アンケートの結果や記載事項は8割、9割は一緒になるのではないかと思う。これだけのボリュームのものを各自治体で作るのは、労力、費用ともにもったいないのではないか。連携して策定して費用などを節約することなども考えられると思う。</p> <p>環境づくりについては、周辺自治体と連携して実施することが効果的であることは理解しており、今後、どのように連携していくかは考えていきたい。ただし、環境基本計画については、一自治体としても環境問題に対してどのように取り組んでいくのかを計画で示していくことも重要なことだと考えている。もちろん、情報交換などは積極的に行っていききたいと考えている。</p>
A 委員	<p>この計画にはとても良い情報も掲載されていると思うが、環境省などでも環境教育で活用できる良い資料が無料で提供されている。そういった資料を参考にしたり、例えば学校に配布したりすると良いと思う。ボランティアの活動でもそういった既成の資料を活用している。</p>
大橋課長	<p>市の教育委員会にも、埼玉県から環境教育に関する資料が送られてくる。市内の学校でも、そういったものを活用して授業が行われている。</p>
三宅会長	<p>今後、環境基本計画の審議が2回予定されている。あとの2回の内容はどう考えているか。</p>
中澤主任	<p>本日頂いた意見をまとめ、庁内検討委員会で報告させていただく。意見については、今回出していただいた皆様の意見を優先するが、法律や条例などによる制限や、予定している事業の関係で反映できないものもあるので、その辺の確認、調整を庁内検討委員会で</p>

	<p>う。</p> <p>次回の環境審議会では、庁内検討委員会でどこをどのように修正したのかを報告させていただく。</p> <p>その次の、来年1月に開催予定の環境審議会では、11月中旬から12月中旬にかけて、パブリックコメントを実施するので、どういった意見があり、どう回答したのかということについて報告させていただく。</p> <p>また、2月には計画策定についての答申を実施するが、これには会長と副会長に御出席いただく予定である。</p>
A 委員	<p>白岡市環境基本条例は改正する予定はないか。附則の文言の内容について違和感がある表現がある。例えば、「自然環境に恵まれたまちである」は、過去形で「まちであった」とするべき。その後の「このような豊かな自然環境のもと」という表現も冒頭に「かつては」と過去形にした方がよいと思う。環境は悪化している。現状、豊かな自然環境になっている訳ではないと思う。</p>
篠塚部長	<p>「自然環境に恵まれたまちであった」という表現だと、現在の白岡市の環境を全否定するようなイメージも受ける。現状としては、現行条例のままとしたいと考えている。</p>
三宅会長 委員一同 三宅会長	<p>その他質問等はあるか。</p> <p>なし。</p> <p>議事が全て終了したため、議長の職をおりる。</p>
大橋課長 村岡主査 大橋課長 委員一同	<p>5 その他</p> <p>その他に関して、事務局から連絡がある。</p> <p>第3回白岡市環境審議会の開催日時について連絡。</p> <p>各委員から何かあるか。</p> <p>なし。</p>

大橋課長	6 閉 会 会議を閉じる。 以 上
------	-----------------------------